

Tokyo Kasei Press

学校法人渡辺学園 広報誌 なでしこ

VOL.
101
2024.7

14 緑苑祭開催 板橋(10月26日・27日)・狭山(27日)



02 就職決定率 大学98・5% 短大99・3%
16 造形表現学科 アートキャンプ(9月28日・29日) 今年のテーマはdrama

人の一生を支える学びと仕事がある

 東京家政大学
TOKYO KASEI UNIVERSITY

東京家政大学大学院／東京家政大学／東京家政大学短期大学部／東京家政大学附属女子中学校高等学校／東京家政大学附属みどりヶ丘幼稚園

大学2年生対象 ～就活ワンランクUP!～ チャレンジプログラム

年々早まる採用選考や、年々高まる人気優良企業の倍率を踏まえ、大学2年生の希望者を対象とした就活特別プログラム「～就活ワンランクUP!～ チャレンジプログラム」。いざ就活をスタートする際に安心感をもって挑めるよう、2年生という早い時期からゆっくり着実に準備を進めていきます。自分の課題に向き合い、書類や面接で自分の良さを最大限アピールできる力を磨くことにとどまらず、意欲のある学生たちが切磋琢磨しながら成長し、自分がイメージしている就活のワンランクUPを目指します！

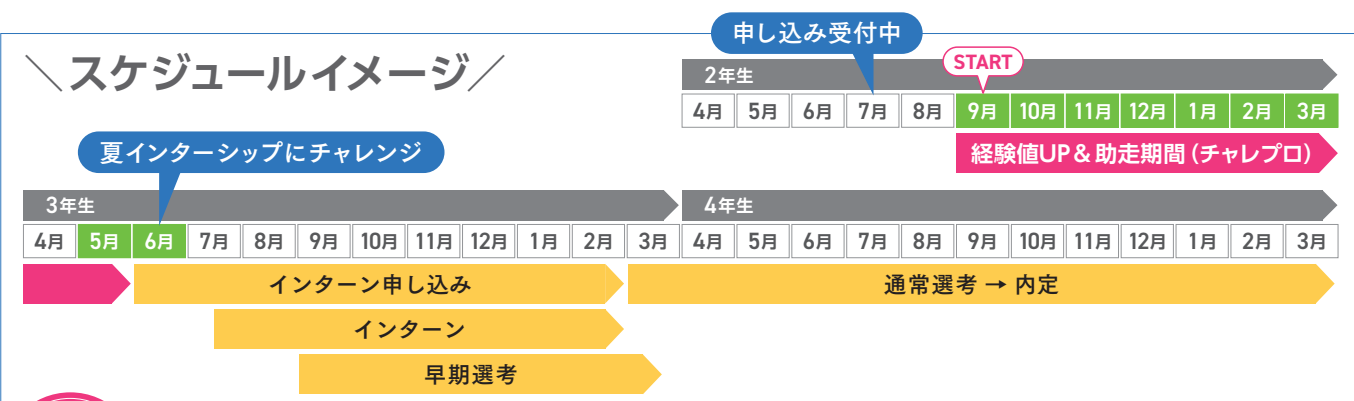


“ワンランク上”の
就活力を身につけたい！

“早期化する就活”に向けて
しっかりスタートを切りたい！

“自分に自信をつけて”
就活に臨みたい！

“キャリアについてもっと
広く深く”考えてみたい



申し込み受付中！ 対象は大学2年生(全学科)の主に企業系就職希望者。詳細はキャリア支援課までお問合せください。

チャレンジプログラム1期生(現:大学4年生)に聞いてみました！

食品メーカー
開発職 内定！



栄養学科 A.K.さん

夢を叶えるためのスタートラインに立つ準備

私は就職活動に対して漠然とした不安を抱いていたため、将来の自分と真剣に向き合うきっかけを作りたいと考えていました。そこで、採用のリアルな現場で活躍するプロの講師が就職活動についてわかりやすく教えてくださること、自身についてじっくり見つめ直すカリキュラムがあることに魅力を感じ、チャレンジプログラムへの参加を決意しました。

プログラムの中で最も印象に残っていることは、「趣味や学業への取り組みからも強みを見出すことができる」という先生の言葉です。これがきっかけとなり、「付け焼刃の経験」をアピールするのではなく、「過去の経験の中で自身がどのように強みを発揮してきたのか」を見つけようという考え方に変わりました。プログラムに参加していなければ、この発想の転換は難しかったと思います。またプログラムで学んだ「就職活動は自分と相手を知り、握手をする」という考え方は、就職活動中にも非常に大切にしていました。

2年次に就職活動について向き合う時間を持てたことで、「ここで働きたい！」と思う企業から内定をいただくことができました。夢を叶えるためのスタートラインに立つ準備ができたため、チャレンジプログラムに参加して本当に良かったです。

チャレンジプログラムには「知らない知識がない」

私がチャレンジプログラムに参加した理由は、ただ自分が心配性だからです。入学前から将来デザイナーとして働きたいと思い、「就職活動は早めに動いておかないと」という不安からくるモチベーションでした。プログラムに参加してみた印象としては、「知らない知識がない」これに尽きます。セミナーに参加すると、すでに知っている知識ばかりを紹介されたり、自身のキャリアには関係のないことを提示されたりすることもあるかと思いますが、チャレンジプログラムに関しては一切ありませんでした。

特に役立った経験としては、「ES対策」です。教えていただいた骨組みや、語彙の引き出し、自分が何気なく行っていた小さな行動がエピソードになることなど、ESの全てをここで学びました。この対策がどれだけ良かったかは私の就職活動の結果にも表れており、添削に持っていったも特段指摘されることはなく、ESが原因で落ちたと感じる企業もありませんでした。私が周りの学生よりも比較的早く就活を終えることができ、就活自体に嫌悪感を抱かずに走り切れたのはこのプログラムのおかげです。ぜひ就職活動の第一歩として、利用してみてください！

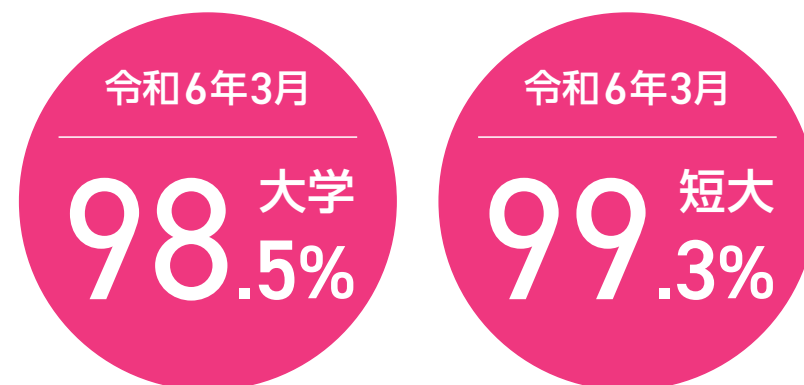
デザイナー職
内定！



造形表現学科 S.H.さん

令和5(2023)年度の就職決定率！

卒業生就職決定率



※令和5年度 1,767名の学生が卒業

※就職決定率=就職決定者/就職希望者(令和6年5月1日現在)



～卒業時アンケートでみる卒業生の就職への思い～

※「卒業時アンケート」…令和5年度卒業生の就職活動状況調査より抜粋

就職先への納得度が高い

「十分納得」「まあまあ納得」を合わせると大学は約9割・短大も約8割と自身の就職先に納得している結果に！

就職先を選ぶ際に重視したこと

大学

- 第1位：職場の雰囲気
- 第2位：仕事の内容
- 第3位：取得資格が活かせる

短大

- 第1位：自分自身の安定性
- 第2位：取得資格が活かせる
- 第3位：給与、賞与

仕事内容や専門性を活かせる就職先を選ぶ上で、最終的な決め手は職場環境や待遇面となる傾向に！！

就職活動に必要なと思ったこと

大学

- 第1位：自己分析
- 第2位：何をやりたいのか考える
- 第3位：面接対策

短大

- 第1位：何をやりたいのか考える
- 第2位：自己分析
- 第3位：履歴書作成

自分を知ること(=自己分析)、やりたいことを考えるヒントがキャリア支援課のセミナーやインターンシップに！！

後輩の就職活動に向けてアドバイス

- 第1位：自分のやりたいことをしっかり見極めておく
- 第2位：自己分析をしておく
- 第3位：就職活動の準備を早い時期から始める

これからの自分を考えるタイミングに“早すぎる”ことはありません。知らない仕事は選択肢にはなりません。まずは、知っている世界を広げていくことが大切に！！

就職活動は「内定がゴール」ではありません。

卒業後も自身のキャリアを積んでいく上で、「自己分析」から「自分が本当にやりたいこと」を知ることはとても大切です。

本学では低学年からの手厚いキャリアサポートもあり、学生一人ひとりが進路に向き合っているからこそ、高い就職率と合わせ、納得した就職活動を行えていることが見えてきました！



キャリア支援の詳細はHPをご確認ください。

教育福祉学科 宮地孝宜ゼミ「こころカフェ」

学生がいたばし総合ボランティアセンターで「こころカフェ」を運営 ～地域住民が気軽に立ち寄ることができる居場所づくり～



企画・運営する学生

教育福祉学科 宮地孝宜先生のゼミ生は、月に1回、いたばし総合ボランティアセンターにてコミュニティカフェ「こころカフェ」を運営しています。この取り組みは、地域の活性化や交流促進などを目的として、学生自ら発案・企画し、昨年9月にスタートしました。各世代に合ったコーナーを設置し、子どもや若者から高齢者まで、幅広い年齢層の人々が気軽に立ち寄れる居場所を提供しています。

取り組みの発端となったのは、同センターにおける社会教育実習後の学生からの提案で、センターとの協働により、地域課題の解決や地域の活性化、地域交流の促進、センターの活性化などに繋がる活動を始めたいというものでした。誰もが馴染みやすい心温まる空間にしたいという思いから、名称は「こころカフェ」に決定。談笑ができるコーナーやコマ回しなどの昔遊びができるコーナー、工作ができるコーナー

なども設置され、参加者が自由に活動

できる環境が整えられています。高齢者を対象としたスマートフォンの使い方のミニ相談会も要望に応じて実施しています。

現在、参加者は下校後の小学生、20代の若者、子育て中の親と幼児、高齢者、地域の民生委員、障がい者など幅広い層からなり、居場所として定着しつつあります。運営者である学生は準備や交流を行うとともに、各コーナーで参加者と積極的にコミュニケーションを取っています。

現代社会において、子どもや若者にとって、家庭と学校以外の第3の居場所（サードプレイス）の必要性が指摘されています。しかし、それが確保されているとはいえない状況にあり、その一方で、世代を超えた交流や地域での交流は減っており、大学生や若者のボランティアへの参加も少ない状況にあります。そんな中、「こころカフェ」の取り組みが、子どもや若者から高齢者までを含む地域の人々に居場所を提供し、さらなる交流・活性化の契機となることを目指していきます。



カードゲームをして交流



高齢者との交流

こころ
カフェ

- ・毎月第4金曜日 16:00～18:00
- ・無料
- ・子どもから高齢者まで全世代が対象
- ・東京都板橋区本町24-1
いたばし総合ボランティアセンター

※ 今年5月より新たな試みとして、高校生以上を対象とした「わかもの時間こころカフェ」も開催中
・毎月第2火曜日 18:00～20:00



いたばし総合
ボランティア
センター HP



Instagram
(こころカフェ)



Instagram
(宮地ゼミ)



Facebook
(宮地ゼミ)

宮地ゼミ：千葉市生涯学習センターより 感謝状が贈呈されました！

宮地ゼミの学生有志が、今年1月からボランティア活動として、千葉市公民館職員研修動画の作成を行い、千葉市生涯学習センターに寄贈しました。その功績に対し、5月7日付けで同センターより感謝状が贈呈されました。



児童学科「育児支援特別演習B(地域子育て支援の企画と運営)」 尾崎 司 先生

学生が板橋区のガイドブック「いたちよこブック～公園編～」の作成に協力 ～紙面づくりのほかSNSも活用して魅力を発信～

児童学科の学生が、板橋区の発行する観光ガイドブック「いたちよこブック～公園編～」の制作に協力しました。このガイドブックは、賑わいや安心・温もりを地域にもたらしようとする持続可能な観光資源をテーマとし、若い世代にも親しみやすい紙面づくりやSNSへの展開を行うため、板橋区より児童学科に協力が依頼されました。「育児支援特別演習B(地域子育て支援の企画と運営)」尾崎司先生の授業の中で、学生は「いたばしのいいところをちょこっと知ってほしい」と、ガイドブックのタイトルを「いたちよこブック」と題して制作に着手しました。

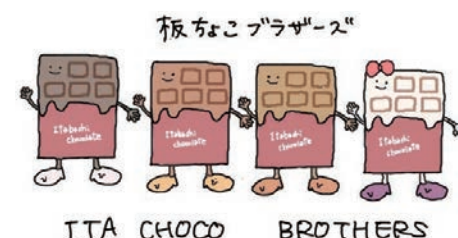
「たいけん」「いやし」「うんどう」などのカテゴリー別に区内の公園の魅力を紹介するとともに、周辺の飲食店などの情報や、ベビーカー置き場やオムツ替え台の有無など子ども連れでの外出で気になるポイントも掲載しています。また学生は紙面づくりのほか、オリジナルキャラクター「ITA CHOCO BROTHERS」の考案や、「いたちよこ」公式 Instagram アカウントにて、紙面で紹介しきれなかった公園の情報に加え、学生が「いたちよこ探検隊」として、区内の公園やその周辺の魅力発信も行っています。

ガイドブックは板橋区役所やいたばし観光センター、区内11箇所の図書館などで配布されているほか、板橋区公式ホームページからPDF版をダウンロード可能です。



活動参加学生の感想

- ・授業ではイベント企画のノウハウを学び、実際にフィールドワークをしながら、子育て支援に役立つように考え、ベビーカー置き場やオムツ替えが出来る場所の有無を確認するなど、本学の学びを活かした視点でマップ作りを行いました。
- ・「子育て支援」をテーマとして、保育学生の視点や専門性を活かしたマップ作りをしたいと思い取り組みました。私たちの作成した「いたちよこブック」が親子の元に届くことで子育てをしやすい街づくりや地域の活性化に繋がるきっかけになったら嬉しいです。



いたちよこブック
(板橋区HP)



Instagram



YouTube

学生が板橋区より取材されました！



「いたちよこ探検隊」の活動風景



オーストラリア アデレード大学春期語学研修

管理栄養学科
3年 K.N.さん

アデレードでの生活

私は今、オーストラリアのアデレードに語学留学中です。アデレードは東京のような大都市ではなく、中心部に大学、職場、買い物、学生の遊ぶ場所があり、その周りに住宅街があります。アデレードは、車を30分強走らせるとどこにでも行くことができる小さな町です。日本のsuicaの代わりにメトロカードを使って学校に通学していますが、そのカードはとても便利で、定期のようなものを買ったら通学以外の通路も無料で行き来することができます。

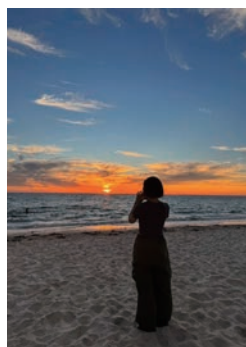
授業は週5日間4時間授業で9時から13時まで行われ、朝、授業がある時は7時に起きて8時半に家を出て学校に行きます。授業の終わりに大学のキャンパスで昼食を取ったり、ショッピングをします。午後に授業がある日は変わらず7時に起きて30分ランニングしたり、無料の英会話レッスンを受けに行ったりしています。

私が海外に行って気づいたことは、もっと自信を持っていいということ。もっと自分のしたいと思ったことを伝えていいということ。そして、日本食のおいしさです。今までの自分は間違いが怖くて、間違えたら周りの人はどう思うだろうという不安を抱えて、自分の意見を言えないでいました。英語の授業の中ではたくさんプレゼンテーションがあり、みんなの前で間違いをする機会も増えました。そんな中、私の周りの人を見てみると間違えても「あ、そっか」という感じで気にせず、さらに、自分が第三者になって間違えた人を見て「ナイストライ」と心の中で言っている自分に驚きました。英語を覚えるために間違いは良い調味料みたいなものだと思います。

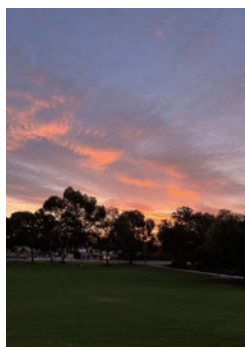
日本食には野菜本来の味を楽しむ素朴な食べ物もあれば濃い味付けの食べ物も豊富にあります。私のホストファミリーは味

付けの濃い食べ物が好きな傾向があり、ご飯には味付けの濃い食べ物が多く出てきます。私も味付けの濃い食べ物が好きなので問題はないですが、ふとした時に日本食の素朴な味わいがする料理を食べたくなります。アデレードでは日本食レストランに行くと1人5000円はかかってしまうほど高いのに、それほどおいしくありません。そのため、調味料をスーパーマーケットで買い足し、時々食事を作っています。海外ではインドカレーとは違う日本のとろとしたカレーや、照り焼きチキン・唐揚げが人気で、先日は照り焼きチキンをホストファミリーに作ってあげて喜ばれました。

気が付けば、もう留学期間の半分が過ぎました。残りの時間も大切に過ごしていきたいと思います。



クラスメイトとブライトンビーチヘサンセットを見に行った時



家の近くから撮ったサンセット



クラスメイトとそのホストファミリーが開いてくれたバーベキューパーティー



学校の近くにできた仮設遊園地にクラスメイトとそのホストファミリーで行った時



動物との距離が近いと話題のワイルドライフパーク動物園

キャンパス内で行える！国際交流
どなたでも参加可能！！

イベント情報

国際交流イベント

インターナショナルカフェ(6月・10月)

香港、中国、韓国、台湾、インドネシア出身の留学生と在学がさまざまなテーマについて語り合う異文化交流会を行います。6月は「マイ・ルーティン〜今日どう過ごす?〜」をテーマに学生同士で盛り上がりました！

国際料理教室(11月)

11月に本学留学生が講師となり、母国の料理を紹介します。一緒に多国籍料理を調理してみましょう！今年はアジア料理に挑戦予定です。

海外研修イベント

春期の研修説明会(10月)

春期に実施する海外研修に関する募集説明会を実施します。長期語学研修を始め、短期英語研修や児童・栄養・服飾美術に関する専門研修について説明会を実施する予定です。

帰国報告会(10月～11月)

夏期に実施した海外研修の帰国報告会を実施します。研修に参加した学生が研修での経験談や学びを発表します。



イベントの詳細は
Instagramを
ご覧ください！

東京家政大学グローバル教育センター



板橋キャンパス 16号館 2階
開室時間：平 日 9時から17時
土曜日 9時から12時
問合せ：03-3961-1861

海外研修 現地からの声



カナダ マニトバ大学春期語学研修

英語コミュニケーション学科
2年 S.K.さん

留学したからこそ学べるもの

私は現在、カナダのマニトバ州・ウィニペグ市というところで英語を学んでいます。英語のクラスはReading・Writing・Listening・Speakingの4つのセッションに分かれていて、中国や韓国、チリ、フランス、ウクライナなどさまざまな国の人と一緒に勉強しています。3月に到着した時はまだ雪が降っていて寒かったのですが、現在は暖かく過ごしやすい気候になりました。放課後は、クラスメイトと大学の図書館で勉強したり、学校が提供しているアクティビティやクラブ活動に参加したりしています。マニトバ大学は日本語と英語の言語交流クラブがあるので、日本の文化に興味がある学生と話すことができている。週末は市内を観光したり、現地の日本語学校でボランティアもしています。

留学前は、授業についていけないか、友達ができるかなど、不安なことが沢山ありました。しかしグローバル教育センターの方や友人、家族などさまざまな方にサポートしてもらい、留学に向けてしっかりと準備ができたからこそ、今の

充実した生活を送れているのだと思っています。

カナダは自然が豊かな国なので、ウィニペグでは運が良ければオーロラが見られる時もあります。家や学校の周りには大きな公園が沢山あり、シカやウサギ、リスなど日本ではなかなか見られないような動物にも遭遇することができます。

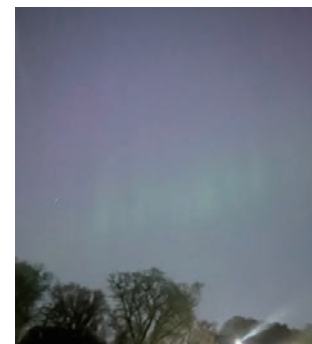
このような毎日を過ごしていると、日本との違いがたくさん見つかります。例えば、ウィニペグにはとてもフレンドリーで親切な方が多いです。このことをホストマザーに話したら、「ウィニペグの夏は30度、冬は-40度という厳しい環境のため、昔から人々が助け合いながら暮らしているのが関係しているのではないか」と言われました。こうした環境や歴史的な背景などに基づく文化の違いは教科書などではなく、留学でその人々と交流したからこそ学べたことだと思っています。残りの数カ月も一日一日を大切に、1つでも多くのことを学べるように頑張りたいと思っています。



マニトバ大学のメインビルディング



ウィニペグにあるカナダ人権博物館



ウィニペグで見たオーロラ



友達の誕生日パーティー



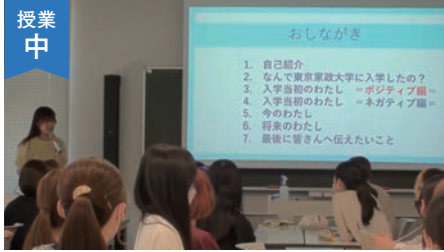
ボランティアをした日本語学校で作ったかぶと

スチューデント・アシスタント (SA)

大学1年次必修科目「スタートアップセミナー自主自律^{*}」では、1クラスに1名、新入生の学びを支える上級生のスチューデント・アシスタント (SA) を採用しています。新入生にとって「初めて定期的に関わる東京家政大学の先輩」であり、授業や学生生活について相談しやすい身近な存在です。



授業内容について教員と打ち合わせを行います。授業が始まる前には教室の環境の整備・その日に使う教材を学修・教育開発センターから教室まで運ぶことも重要な仕事です。



グループワークのサポートや教材の配布などを行いながら、学生ならではの視点で新入生の様子を担当教員に伝えるなど、新入生と担当教員をつなぐ役割も担っています。また、SAの経験談をテーマにした40分間のプレゼンテーションを行います。



全ての授業終了後に振り返りとして行われる「SAと教員による合同意見交換会」を通じて、この科目の授業運営や施策について意見を述べるなど、大学の授業改善へも貢献しています。

毎年採用枠を超える応募があり、審査の結果選ばれた方にSAとして勤務してもらっています。来年度の新2・3・4年生(大学)対象のSA募集については、11月頃に事前説明会を実施予定です。詳細はポータルなどでご連絡します。

※「スタートアップセミナー 自主自律」とは

大学1年次の必修科目で東京家政大学の建学の精神「自主自律」をテーマに全学生が学ぶ授業。板橋校舎は4学部10学科、狭山校舎2学部3学科内でそれぞれ学科・専攻を混成シクラス編成をします。



大学HP

SAに聞いてみました!

SAは大学生活の中の挑戦のひとつ

私のスタートアップセミナー自主自律のSAの先輩は、学業も私生活も努力をされている方で、何となく自分からは遠い存在だと感じていました。そのため、SAの先輩への憧れや刺激を受けた部分は多くありますが、自分がSAになるのは難しいことだと思っていました。しかし、親しくしていただいた先輩がSAだったと知り、お話を伺った時に、SAは決して特別な人になっているのではなく、私と同じ学生がやっているのだと気づきました。このことがきっかけとなり、私の大学生活の中の挑戦のひとつとして、家政大生だからこそできるSAに挑戦しようと思いました。

活動の中で印象に残っていることは、説明会や事前研修での、「スタートアップセミナーを受ける学生が主体だ」という言葉です。答えを教えるのではなくヒントを与えることや、後輩をサポートすることについて学びました。私は今まで先輩という立場で後輩と関わった時に、相手が求めることに対して答えようと努めていました。スタートアップセミナーが始まる前は不安な部分もありましたが、授業が始まり、1年生たちの活発な話し合いや発表を見ていて、私が何かを言わなければという場面がなく、1年生のエネルギーにも支えられていると感じています。

私はSAの経験を通して視野を広げ、これからの大学生活や社会人になってからに活かしていきたいと思います。たくさんの人と関わることや、多様な価値観に触れることのできるこの機会からさまざまなことを学び、これからの生活や社会に出てからの人との関わりに活かしていきたいです。



服飾美術学科2年 Y.N.さん

自分の経験を伝えられる人になりたい

SAの活動が始まって1カ月が経ちましたが、毎回1年生の姿を近くで見ている、真剣に学ぶ姿からこちらも学ぶことが多いです。

まず、なぜSAのメンバーになろうと思ったのか。これは、私がスタートアップセミナー自主自律の授業を受けていた時のSAさんの影響が一番大きいです。いつも学生の立場で物事を考え、少しでも困っていればすぐに駆け付けて質問に答え、明確な答えは与えずに考え方のヒントを与えるなど、学生が授業に参加しやすい環境づくりを徹底してくれていました。そして、自分の経験を踏まえた感想やアドバイスがあり、ためになることが多かったです。将来自分もこのような立場になって、自分の経験を伝えられる人になりたいと思うようになりました。

実際にSAになってみて、1年生からの質問に答えたり、自分の経験を踏まえたアドバイスをしたりする機会が多くあり少し大変ですが、感心してくれる姿にやりがいを感じる面もあります。また第5回の授業では、今までサポートする側だった自分が中心となってプレゼンテーションを行うということで、少し緊張しましたが1年生たちが真剣に聞いてくれる姿勢や、ためになったというような感想を聞くことができ、達成感を感じられました。

SAは自分の経験を人前で話す機会が多く、回を重ねることに少しずつ自信をもって話すことができるようになっていきました。このような経験は就活時に自分をアピールする際に活かしていけるのではないかと思います。残りの授業も積極的に先生、学生のサポートを行っていきたいです。



英語コミュニケーション学科3年 H.I.さん

Students ～下級生をサポートする上級生の活動～

学生CRED

学生CREDは、「東京家政大学・東京家政大学短期大学部と、私たちの学生生活をよりよくすること」を目標として活動している学生有志団体です。

4月に開催された「新入生ウェルカム交流会」では、120名を超える多くの新入生が参加し、授業や履修登録、サークル活動、アルバイトなど、さまざまな情報を同じ学科の先輩たちから聞くことで、現状の不安が解消され、今後の大学生活への期待が膨らみました。



大学HP



X(旧Twitter)



Instagram



新入生ウェルカム交流会の準備



交流会 当日の様子

学生CREDに聞いてみました!

学生CRED活動でさらに主体的に行動したい

私が学生CREDのメンバーになった理由は、高校生の頃に体育祭や文化祭の運営に関わっていて、大学でもこのような活動を継続したいと思ったからです。

学生CREDに入り、印象に残っている活動は、「新入生ウェルカム交流会」です。私が入学した時も開催されており、参加しました。参加してみて、学生だけで全て運営しており、私が求めている活動にプラスして、主体的に行動したいと思いました。いざ運営する側になると、高校生の頃のように「この枠の中で行ってください」と指示されるように敷かれたレールの上を通っていくのではなく、1から作っていく必要がありました。しかし、所属している団体の皆と意見を出し合い、協力しあって運営をしていくという楽しさもありながら、難しさも経験することができました。

この経験から、今後社会に出た時に複数人で1つの目標に向かって作業する場合、まとめ役の方へ回り、支えられる人になりたいと思いました。



教育福祉学科
3年 R.K.さん

学生CREDで身についた考える力

入学した当初は授業やレポート、履修登録などわからないことだらけで不安を抱えていました。そんな中、友達と参加したのが学生CRED主催の新入生ウェルカム交流会でした。上級生の説明や質問タイムのおかげで不安を解消することができたのと同時に、初めて学生CREDの存在を知りました。学生が主体となりイベントを企画運営しているという説明を聞き、私が新入生ウェルカム交流会で不安を解消できたように、イベントを通して学生生活が良くなるサポートをしたいと思いメンバーになることを決めました。

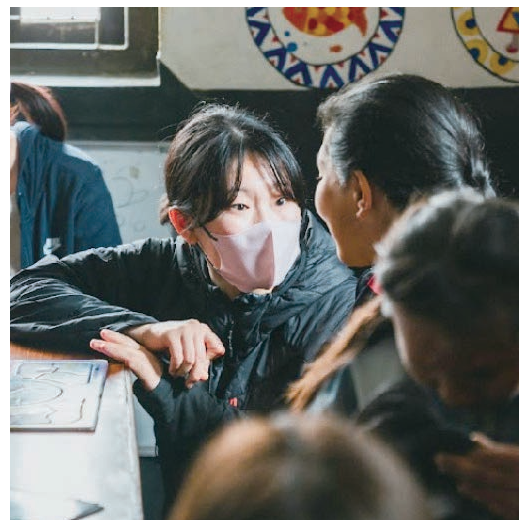
3年間活動をしてきた中で、2年次での緑苑祭の活動が印象に残っています。前年度は展示だった企画を食品販売に変えての参加でした。何を販売するか、値段や提出する書類など初めてのことばかりでした。私は主に隔週の委員会への参加と事前準備、当日スタッフ、片付け等を担当しました。当日スタッフでは販売のための声掛けはもちろん、学生CREDの存在を知ってもらうための宣伝も行いました。人の流れを見て声掛けのタイミングや場所を考えなければなりません。また初めてということもありトラブルも多々ありましたが1日目は午前中で売り切れるなど想像していたよりも多くの方に来ていただき、大きな達成感を感じました。

活動していく中でチラシ、フォームの作り方やメールの送り方を学ぶことができたのに加え、どのようにしたら学生が参加してくれるか、今学生はこのイベントに何を求めているのかなど考える力がついたことが大きな学びでした。この活動で身についた力は社会に出て必要になると思います。自分達が何を求められているのか、どのようにしたら多くの人に知ってもらえるのかを考える場面において学生CREDで得た学び、経験を役立てていきたいと思っています。



教育福祉学科
3年 S.A.さん

ネパールでのボランティア活動

色んな人会ってみたい！
から生まれた私の挑戦リハビリテーション学科3年
E.S.さん

私が学生生活で大事にしていることは、経験を豊富にし、見聞を広げることです。さまざまな経験を積むことで多様な考え方や異なる価値観に触れることができ、視野を広げ選択肢を増やすことに繋がります。そのため、多様な分野のボランティア活動や海外フ



孤児院でのフィールドワーク

ルドワークなど、積極的に新しいことに挑戦するようにしています。

大学2年生のときに発達障害のある子のサッカースクールボランティアに参加した際には、ドリブル練習のときに私が練習を促す声掛けをしても中々ボールに意識が向かずに練習できない子がいました。そのとき私はどのように対応すればよいのか分からず、今まで学んだ知識を活かせないまま声掛けをすることしかできませんでした。しかし、その子がドリブルをやらない理由として、他の対象が気になってしまっからであること、そのためマットを使って気になってしまっものを隠して視覚的な誘惑を遮断し、ボールに意識が向く様に工夫するとよいことを教えてもらい実践したところ、少しずつボールに意識が向いて練習に取り組んでくれるようになりました。このことから、学んだことを実際の現場で活かすことの難しさ、自分自身の経験不足を感じました。また、何が原因でその行動を行うことが難しいのかを観察して読み取り、環境を整えることの大切さを学ぶことができました。



また、以前から発展途上国での医療に関心があり、一度自分の目で見て現状を知りたいと思ったため、大学2年生のときにネパールで開催されたフィールドワークに参加しました。フィールドワークでは孤児院や現地の日本語学校への訪問、特別支援学校・モノづくり工房の見学やホームステイなどさまざまな体験をさせていただきました。特別支援学校に訪問した際には、発達障害に対する日本との考え方の違い、医療面や環境面の課題などについて、実際にそこに通う子どもと交流し、現地の方に現状を教えてもらったことでよりリアルな実情を知ることができました。このことから、外国籍の患者さんに関わる際はそのバックグラウンドや宗教、生活スタイルなどの違いを念頭に入れて、柔軟に支援方法を変えていくことが求められると感じました。また、実際に足を運び現地の人と関わったことで、人々のサービス精神が旺盛で生活は貧しくても心はとても豊かで温かいことを知り、発展途上国に対する印象が大きく変化しました。

挑戦することによって新たな世界を知ることができると同時に多くの失敗をし、自分自身の課題にも向き合うこととなります。しかし、そこでの失敗や課題に向き合い、学びを探索し続けることで日々成長していきたいです。そしてこれまで積み重ねてきた経験から得た知識、技術をもとに作業療法士として対象者の方が望む生活を実現することができるように尽力していきたいです。

緑苑祭実行委員会活動で得たこと

「頼り、頼られる」
ことの重要性教育福祉学科3年
H.U.さん

私は、大学生活で緑苑祭実行委員としてさまざまな人と関わってきました。その中で、大切にしていることは「一人で抱え込みすぎないで、人に相談すること」です。

私は昔から人を頼るのが苦手で、できる限り自分でやっていました。しかし、大学2年生になり、緑苑祭



緑苑祭実行委員会定例会の様子

の実行委員長となった時、勉強と両立させるのが大変になってしまい、やることを抱え込みすぎていました。当時の私は、「なんで、委員長なのに頼まれたことを全部こなせないのだろう」「私は委員長に本当に向いていないな」と自分を責めることが多かったです。しかし、ある日、副委員長と話して、「仕事を抱えすぎだよ。もっと人を頼っていいんだよ」と声をかけられました。私にとって、思いもしない言葉でした。私は、むしろ自分ではできていないと思っていたので、その時初めて、自分は頑張りすぎていることに気付きました。その後、どうすればいいのか考える場面に当たった時は、自分で答えを見つけるのではなく、実行委員会に聞くようにしました。結果的に、自分ではできる範囲の仕事を抱えるようになりました。また、他の人の意見も聞くことで、実行委員会全体の意見を反映し、実行委員会皆の緑苑祭を作り上げることができました。

かつての私は、チームとは上の人がしっかりと業務をこなし、引っ張っていくことしか想像できませんでした。



緑苑祭実行委員会集合写真

座学とは違い学生同士で発表資料を作成するため、チームワークが大切になっています。そのため、自分1人が頑張るより、周りの意見を聞いてチームで作り上げていくことを大切にしています。

また、「社会福祉実習」と「心理実習」が始まり、色々な職場にいきました。現在は生活で困っていることは、分野に区切ることができず、さまざまな分野をまたがっています。特に福祉、心理は人を相手にする職種であるため、その人が困っていることに対して、いろいろな分野の専門家、職種の人と連携することが求められます。実習を通して、チームで大切にしていること、実際の現場の難しさについてもっと学んでいきたいです。そして、その実習をいい学びにするためにも、自分1人で悩むのではなくゼミの仲間や先生に相談して、よりよい学びにしていきたいです。

しかし、実際に実行委員長として活動して、自分1人でこなすことではなく、周りを頼り、頼られることが大切なことを学びました。

現在私は、「心理分野」と「福祉分野」のゼミナールを取っており、社会福祉士を目指して勉強しています。

ゼミナールでは、座学とは違い学生同士で発表資料を作成するため、チームワークが大切になっています。そのため、自分1人が頑張るより、周りの意見を聞いてチームで作り上げていくことを大切にしています。

東京家政大学・東京家政大学短期大学部 2025入試 最新情報

入試の詳細はHPより
ご確認ください。



今年度より新しい総合型選抜を導入

NEW 自主自律探究入試 探究学習の実績や意欲を重視

内容

高等学校の探究学習と関連した、受験生の大学で学ぶ意欲を最も評価する入試制度です。エントリーにはオープンキャンパス等の特定プログラムの参加が必要な場合があります。

選抜方法

- 書類審査（一部学科のみ）
（課題設定シート(大学)、志望理由書(短大)、調査書）
- 対面審査

実施学科・科

1期 9月15日(日)
大学：造形表現学科を除く全学科 **短大：全科**

2期 12月15日(日)
大学：造形表現学科・看護学科を除く全学科 **短大：全科**

入試の流れ



NEW 知識・技能総合入試 学力試験の点数を重視

内容

学力試験の点数と提出書類で選考を行います。2期は併願制のため、出願後も他大学の受験が可能です。
※予約給付型奨学金の選考を兼ねた入試です。

選抜方法

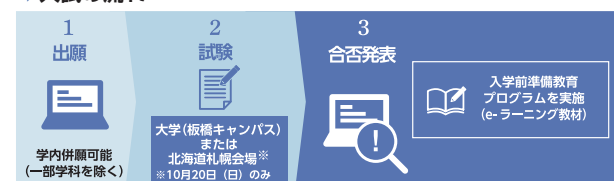
基礎学力試験（国語・数学・英語から選択または必須）*
書類審査（自己推薦書、調査書）
※造形表現学科の1期は実技（デッサン）も選択が可能です。

実施学科・科

1期 10月20日(日)
大学：全学科 **短大：全科**

2期 11月17日(日)
大学：全学科 **短大：全科**

入試の流れ



大学を見よう！知ろう！

Open
Campus
2024

事前申込み制

Program

- 大学概要・入試説明
- 学科別プログラム(ワークショップなど)
- 個別相談
- 在学生によるキャンパスツアー
- 在学生とのコミュニケーション など



※オープンキャンパスなどイベントの日程・時間・内容は変更・中止の可能性があります。

板橋キャンパス オープンキャンパス

児童学部／栄養学部／家政学部／人文学部／短期大学部

7/14(日) 8/4(日) 8/24(土)
12/15(日)

狭山キャンパス オープンキャンパス

健康科学部／子ども支援学部

7/13(土) 8/3(土)
8/25(日)



オープンキャンパスの
詳細はHPを
ご確認ください。

産学連携事業

ヒューマンライフ
支援センター



マリンフーズ株式会社との連携「海鮮丼レシピ開発」

スーパーでの販売をイメージした“海鮮を使った丼ぶり”レシピの開発を実施しています。36名の学生から50レシピもの応募があり、書類選考を通過した10名がマリンフーズ本社で試作、ブラッシュアップを経て、“推し海鮮丼総選挙”に挑みます。7月にマリンフーズインスタグラム、Hulipカウンター等で投票を実施するので、ぜひご参加ください。総選挙にエントリーした推し海鮮丼は9月のマリンフーズ展示商談会でもお披露目予定です。



説明会の様子(5月)

昭和産業グループとの連携「たまごのレシピ開発」

今年で11年目を迎える昭和産業株式会社、昭和鶏卵株式会社との連携事業「たまごのある暮らし レシピ開発教育プログラム」は、レシピ考案の枠を超えた「食品業界、商品開発の体験」という「学びの場」へ成長しました。昨年度学生が考案したたまごを使ったレシピは、昭和鶏卵株式会社の鶏卵商品“たまごのある暮らし”に貼付されて6月から店頭で順次販売中です。



6～7月のラベル

6～7月販売：マルゲリータ風卵ご飯焼き、たっぷりしらすとネギのピザ風卵ご飯焼き

8～9月販売：パリパリたまご餃子、オレンジのセミフレッド～いちごソースがけ～

販売店舗：ベルク(千葉エリア)、スーパー三和(神奈川・東京エリア)、フーコット(埼玉北部エリア)、ささき(茨城エリア)、サンドラッグ(東京・千葉・北関東エリア)、くすりの福太郎(千葉エリア) など

また、今年も新たにたまごを使ったオリジナルレシピを募集しました。峯木真知子先生、土屋京子先生に全面協力をいただきながら、7月の試作・ブラッシュアップ、9月の最終講評会へ向けて進行中です。



説明会の様子(5月)

東武百貨店池袋本店との連携「栄養指導の疑似体験」

5月18日(土)、卒業生のもあいかずみさんがアンバサダーを務めるビューティーメニューフェアの応援イベントに栄養学科・管理栄養学科の学生28名が参加しました。東武百貨店レストラン街スパイス(12F)へお越しの方を対象に、センサーに手をかざすだけで推定野菜摂取量が測れる「ベジチェック®」を体験していただき、栄養学を学ぶ学生が来場者115名に野菜の栄養や効果的な摂り方について解説しました。



第11回 狭山緑苑祭（狭山キャンパス）

〈開催日〉10月27日（日）

委員会紹介

今年度の狭山緑苑祭実行委員のメンバーが決定し、本格的に活動しています！（委員会人数36人）

委員会では10月27日（日）に開催される狭山緑苑祭を企画・運営しています。ご来場いただいた皆さんに楽しんでいただけるように、実行委員一同、気合いを入れて準備を進めています。



狭山緑苑祭実行委員

実行委員長からのメッセージ

こんにちは。第11回狭山緑苑祭実行委員長の坂巻です。昨年度の第10回狭山緑苑祭にご来場いただいた皆さんに心より感謝申し上げます。さらに、開催にあたり、参加団体、学生ボランティア、大学関係者の方々など狭山緑苑祭にご尽力いただきました全ての方に心より感謝申し上げます。

今年度は昨年度よりパワーアップした狭山緑苑祭にするために実行委員一同、準備を進めています。ご来場いただいた方々はもちろんのこと、参加団体の皆さんも楽しめる狭山緑苑祭にします。多くの皆様のご来場をお待ちしています。

子ども支援学科2年 坂巻 希美

狭山緑苑祭
テーマ決定！はじける！
楽しさ無限大！

このテーマには「家政大生だけでなく、地域の方々も来場したくなるような楽しさがいっぱい狭山緑苑祭にしたい」という思いが込められています。

キャラクター紹介 かせいのモリタン・かせいのモリリン

かせいのモリタン、かせいのモリリンは、狭山キャンパスの公式キャラクターです。狭山緑苑祭を始め、学校行事で多くの方と交流し、キャンパスを盛り上げます。狭山緑苑祭でも皆さんにお会いできるのを楽しみにしています！

★プロフィール★

【性格】 かせいのモリタン：元気 かせいのモリリン：やさしい

【好きな食べ物】 冷たい狭山茶、かせいの森に実るタラの芽、ふきのとう、銀杏など

【モチーフ】 狭山キャンパスにそびえるメタセコイアの木

【込められた思い】

空に向かって枝葉を伸ばしていくメタセコイアのように東京家政大学も更なる発展を遂げたいという思いと、メタセコイアが見せる春夏秋冬の色に人の一生を重ね合わせ、学生の今と未来と応援したいという思いが込められています。



昨年度狭山緑苑祭の様子

SNSアカウント

狭山緑苑祭実行委員の活動などをSNSで発信しています。ぜひSNSアカウントのチェックとフォローをお願いします！当日、ボランティアとして活躍して下さる方の参加もお待ちしております！



X (旧: Twitter)



Instagram

活動をチェック！

第64回 緑苑祭（板橋キャンパス）

〈開催日〉10月26日（土）・27日（日）

委員会紹介

今年度の緑苑祭実行委員会が始動しました！（委員会人数71人）

緑苑祭実行委員会では10月26日（土）、27日（日）に開催される緑苑祭を企画・運営しています。毎週木曜日に学科・科・学年関係なく和気あいあいと楽しく活動中です！委員全員で緑苑祭を盛り上げていきます。皆様のご協力もよろしくお願い致します！



緑苑祭実行委員

実行委員長からのメッセージ

今年度の緑苑祭実行委員会委員長になりました、増田と申します。「花笑み」というテーマに合う笑顔で溢れた華やかな緑苑祭づくりに励んでいきたいと思っています。今年度も楽しい企画をたくさん用意してお待ちしています！ぜひ緑苑祭にお越しください！

管理栄養学科2年 増田 結奈

緑苑祭
テーマ決定！はな え
花笑み

第64回緑苑祭のテーマは「花笑み」です。「花笑み」は大和言葉であり、咲いた花のように華やかな笑顔や人が微笑んでいる様子を表す言葉です。このテーマには、私たちの「緑苑祭を通して、訪れた皆さんの顔に華やかな表情が浮かび、学内に笑顔があふれてほしい」という想いが込められています。

キャラクター紹介 学生支援キャラクター「りょっくん」

りょっくんは東京家政大学板橋キャンパスの学生支援キャラクター兼緑苑祭の公式キャラクターです。緑苑祭ではりょっくんのグッズやりょっくんと会える企画を準備しています！ぜひお越しください！りょっくんも待っています！

★プロフィール★

【誕生日】 11月16日

【性格】 マイペース

【好きな食べ物】 アップルパイ

【好きな色】 緑

【特技】 みんなを笑顔にすること、癒すこと

【使命】 緑苑祭を盛り上げること



昨年度緑苑祭当日の様子



新入生勧誘の様子

SNSアカウント

企画の紹介や実行委員の活動などを発信しています。ぜひSNSアカウントのチェックとフォローをお願いします！

また今年度も緑苑祭の運営サポートをしてくださるボランティアを募集します。詳細は後日manabaやポスターで配信します。お友達との参加も大歓迎です！皆さんの力が必要です。ご応募お待ちしております！

活動をチェック！



X (旧: Twitter)



Instagram

大学・短大後援会補助事業「朝ごはんプロジェクト」 7月22日まで実施中！

大学・短大後援会補助事業では、4月22日～7月22日の期間まで、「朝ごはんプロジェクト」として「100円朝食」を実施しています。ごはん・味噌汁・おかず（肉 or 魚）・副菜（生卵 or 温泉卵 or 納豆）の4品を基本に、8：00～9：00の間で、板橋キャンパスの学生を対象に毎日100食限定で提供。栄養バランスの取れた「100円朝食」を食べて、早起き・朝食の習慣を身につけ、勉強を頑張る学生を応援しています！



女性未来研究所設立10周年記念講演会（第9回女性未来研究所シンポジウム）

告知

人生100年時代女性の未来と希望 ～自分らしく輝く、私たちのこれから～



参加費無料

女性未来研究所は、平成26(2014)年4月に東京家政大学板橋キャンパスに設立され、設立10周年の記念講演会（対面・オンライン）を開催いたします。当日、対面にてご参加の皆さまには、女性未来研究所初代所長の樋口恵子先生が監修した「女性の150年年表」を配付いたします。ぜひ、ご参加ください。

日時 **2024年10月12日(土) 14:00～16:10**

会場 対面：三木ホール オンライン：Zoomウェビナー

定員 対面：200名 オンライン：300名



基調講演 **やまだ加奈子氏**（東京都北区長）

パネルディスカッション

やまだ加奈子氏（東京都北区長）

内海千津子氏（NPO法人子育てママ応援塾ほっこり～の代表／株式会社ほっこりのプラス代表取締役）

山田昌弘氏（中央大学教授／北区男女共同参画審議会委員）

司会進行

平野順子（東京家政大学女性未来研究所所長／北区男女共同参画審議会副会長）

主催 **東京家政大学女性未来研究所**

詳細についてはコチラ➡

* 9月頃に案内告知を掲載予定です。



女性の150年年表

女性の150年年表
Webサイト↓



造形表現学科 アートキャンプ2024

今年のアートキャンプのテーマは

drama

〈開催日〉2024年9月28日(土)・29日(日)

毎年秋に造形表現学科主催で板橋キャンパス全体を使い、アートイベントを開催しています。それがアートキャンプです。3年生が主体となり、美術作品の展示、誰でも参加できるワークショップ、パフォーマンスなど2日間に渡り、繰り広げます。



Art Camp 2024

今年のテーマは《drama》に決まりました！コンセプトは「アートを通じて人と出会い、繋がり、1つの物語を展開する。日常の何気ない1コマがアートに。ここであなたが私たちを見つけてくれた事も劇的な一幕。今も《drama》は繋がってゆく」です。他学科やサークルの皆さんとコラボレーションしたり、いろいろな形で繋がっていきたいと思います。開催は2024年9月28日、29日の2日間です。お楽しみに！



昨年度のアートキャンプの様子

東京家政大学附属

こんにちは、中高入試広報部です

こんにちは、入試広報部です！この4月からの附属中高の生徒募集活動についてお知らせします。附属中高では、令和7（2025）年度に向けて学校改革を行い、広くアピールし広報活動を展開しています。

- ①東京家政大学・東京家政大学短期大学部への推薦枠が大幅に拡大し、中高連携教育がさらに進みます！
- ②高校に国公立大受験にも対応したカリキュラムを導入し、新コース制をスタートします！
- ③生徒の希望を盛り込んだ制服のリニューアルを行います！



具体的には、以下の内容を行います。

- ・学校説明会に加えて、土曜日実施で授業見学可能な（中）ミニ学校説明会、（高）土曜見学会の開催
- ・施設、設備のアピール、生徒や先生と触れ合える（中）オープンスクール、（高）部活動体験会の開催
- ・入試本番に向けて、模擬問題の解答と解説の受講ができる（中）入試体験の開催
- ・中学受験生とその保護者を対象としたスクールランチ体験の実施
- ・全員体制での中学校訪問、塾訪問
- ・東京都内、埼玉県内での合同相談会への参加、出展

幼・中・高・大・短・大学院がワンキャンパスに集った施設一体の学園、資格取得や就職に強い東京家政大学の附属校をストロングポイントとして、1人でも多くの受験生、入学者を迎えられるように活動を行います。ご理解ご協力を引き続きお願いします。（教頭 兼 入試広報部長 宮窪）

入試イベント情報

中学校入試イベント

学校説明会

第2回 9月21日（土）

第3回 10月12日（土）

※ スクールランチ試食会
（希望者・有料）も実施

オープンスクール

第1回 7月27日（土）午前

第2回 7月27日（土）午後

第3回 8月25日（日）

ミニ学校説明会

9月7日（土）、10月5日（土）、10月19日（土）

※ 施設・授業見学、個別相談、スクールランチ体験（希望者・有料）も実施



学校説明会の様子（中学校 賞雅校長）

高等学校入試イベント

学校説明会

第1回 7月28日（日）

第2回 8月31日（土）

第3回 9月22日（日）

部活動体験会

第1回 8月 3日（土）

第2回 9月28日（土）

第3回 10月19日（土）

土曜見学会

9月7日（土）、10月12日（土）

※施設・授業見学、個別相談も実施

中高共通入試イベント

緑苑祭

10月26日（土）・27日（日） 10：00～16：00

※入試相談室（個別相談）も開室

詳細・お申込みは
中高WEBサイトを
ご確認ください。



女子中学校・高等学校

ソフトテニス部 関東大会出場決定！

附属高等学校のソフトテニス部は、令和6（2024）年4月末から5月上旬にかけて行われた「令和6年度関東個人予選決勝大会・関東団体予選決勝大会」にて勝ち進み、関東大会への出場権を得ました。

個人戦 関東大会へは東京都の個人予選決勝大会出場498ペアから上位20ペアが進出

本校からは、T・H組がベスト8へ進出、Y・M組が敗者復活の代表決定戦に勝利し、計2組が関東大会への出場が決定しました。



団体戦 関東大会へは東京都の団体予選決勝大会出場86チームから上位4チームが出場

本校は見事4位に入賞し、5月31日～6月2日に群馬県前橋市で開催される関東大会へ駒を進めました。今大会の成績により、インターハイ予選への出場も決定しました。

関東大会、インターハイ予選に向けて、勇往邁進、全力を尽くします。高校ソフトテニス部にさらなるご声援を！！

中学1年生「5月の生活」

中1学年では、集団行動をする上で大切な時間やルールを守ることや学び、クラスや学年の親睦を深めることを目的として、宿泊行事を行っています。5月12日（日）～5月14日（火）の3日間、千葉方面へ「5月の生活」に行きました。

初日は渡邊辰五郎先生の生誕地である長南町にある「ちょうなん西小」を訪れ、長南町が栄えた理由や本学のルーツとなった辰五郎先生のお話を聞きました。その後、体育館でレクリエーションとしてドローケイや借り人競走、ドッチビーを行いました。

2日目は藍染めとわら細工を体験しました。午後は鴨川シーワールドへ移動し、さまざまな海の生物を見てまわりました。名物のシャチのショーは雨の中でも大盛況で、多くの生徒が見学をしました。宿へ戻った後は、夕食までの時間を利用し、



わら細工体験



飯ごう炊さん

各先生方が担当教科にまつわる問題を出题し、スタンプラリー形式のクイズを行いました。全問正解を目指し、あきらめずにクイズに取り組む生徒が多く、とても頼もしく思えました。

最終日はマザー牧場で飯ごう炊さんを行い、カレーを作りました。どの班もご飯を焦がしたり、カレーを失敗したりすることなく、美味しいカレーを作ることができました。食後には、園内を散策する時間もあり、ネモフィラ畑を見てまわったり、ひつじややぎも見学しました。中でも、こぶたレースは大盛り上がりでした。

この3日間という限られた時間の中で、さまざまなことを経験し、その経験から多くのことを学んでくれたことと思います。生徒一人ひとりにとってかけがえのない思い出として記憶に残る旅となりました。

地域貢献施設紹介

狭山 かせい森のクリニック

3号館2階

平成26(2014)年10月に緑豊かな狭山キャンパス内に開設し、小児・アレルギー科と小児神経内科(発達障がい)の2科体制で始まり、令和元(2019)年に産後ケアサロンと内科・循環器内科を併設、さらに令和2(2020)年に訪問看護部門を併設し、現在に至っています。クリニックでの診療・産後ケア部門・訪問看護部門いずれも、近隣自治体等との連携など地域医療への貢献だけでなく、見学実習など学生教育の場として学修を深める貴重な機会となっています。



健康保育見学実習

I. クリニック

診療時間：月・火 午後のみ ※科により曜日・時間が異なります。

小児・アレルギー科：丁寧な説明を主とし、食物アレルギー負荷試験等を行っています。

小児・神経内科：昨今話題の「気になる子(神経発達症群)」の相談外来を行ない、教育センターや保健所、学校、保育施設等からの紹介、さらには関東地方全域からの受診があります。

内科・循環器内科：循環器疾患を中心に腎臓疾患や糖尿病等の診療および職員・学生の健診後の精査等で健康管理の役割を担っています。



II. 産後ケア部門(かせい森の産後ケアサロン)

営業時間：月・火 9:00~12:30 / 水~金 9:00~16:30

産後の母親の身体的回復と心理的な安定を図り、健やかにその人らしく育児ができるよう、産後ケア事業に取り組んでいます。ベテラン助産師と母性看護学・助産学担当教員が育児や母子の健康の相談に応じ、アドバイスや健診、ケアを実施しています。木々に囲まれた休憩室ではゆっくり休むことができます。また看護学生の実習施設でもあり、看護教育評価では社会貢献と教育の両立について高い評価を得ています。



III. 訪問看護部門

営業時間：平日 9:30~16:30

地域の療養生活支援として、介護・医療保険の制約にとらわれずに在宅ケアサービスを提供できる希少な自費訪問看護部門として、利用者の方々のニーズに合わせて訪問看護を行っています。サービスを通じて地域との連携や交流、学生教育や研究の場となれることをめざしています。



狭山 かせい森の放課後等デイサービス つくし

セミナー棟横

平成28(2016)年4月狭山キャンパス内に、全国でも数少ない大学の附属機関として設置されました。狭山キャンパス内にある「かせい森のクリニック」の小児神経内科と連携し、手厚いサポート体制を整えています。ここでは、軽度発達障がいの児童を対象に好きなこと、得意な活動に参加し、たくさん褒めることによって、自己肯定感を高めることを自立の中核において活動しています。

指導者は、小学校等で長年に渡り教職に就いていた元教員が務めています。施設での活動は、運動、音楽、絵画造形から好きなコースを児童が自ら選び、指導者がその活動を見守り褒めるという、きわめてシンプルなものです。昨年度の狭山緑苑祭では、音楽や絵画造形を選択する子どもたちが発表を行うことができました。子どもたちは日頃の活動の成果を発揮でき、大きな自信となりました。

つくしは、学生の学びの場でもあります。ここで行われている活動に触れ、学ぶことは、将来、特別支援教育や保育等の現場に出た時の大きな力になると考え、ボランティアや実習などを積極的に受け入れています。



つくしHP



学生と児童の関わり



音楽サークルと児童の合同発表

【子ども支援学部の学生の声】

- この施設は、褒めることに重きを置いており、児童一人ひとりの能力を引き出す積極的な姿勢に施設の明るい印象を持ちました。
- 幼稚園教諭をしている母が、発達障がいのある子どもに対応できる人が少なくなっていると言っていました。大学生のうちから発達障がい児と関わる機会があることは、今後大いに役立つと思いました。

緑に囲まれて落ち着いた雰囲気のある東京家政大学には、附属幼稚園や子育て支援施設が複数あります。キャンパス内で地域に住む親と子どもたちの姿をよく見かけるのも本学の特徴です。子育て世代を身近に感じ、子どもと接する機会が多い環境は、学生たちの刺激にもなっています。

板橋 森のサロン 板橋区地域子育て支援拠点事業

1号館2階

森のサロンは板橋区地域子育て支援拠点事業の委託を受けて、ヒューマンライフ支援センターが運営する子育てひろばです。

0~3歳のお子さんを持つご家庭を対象に、月~金曜日の週5日、10:00~16:00(12:00~13:00 close)の間、『あそびのひろば』を開催しています。ひろばの中では、子育て相談や子育て情報の提供、子育てに関するイベントや講座の実施と共に、大学の豊かな環境を活かしながら、ミニ菜園や草花あそびなど、自然や食につながる体験やあそびも取り入れています。

その他にも、月に1回、主に土曜日に実施している『森のアトリエ』では草花あそび、クラフト、造形、ワークショップなど、季節ごとにさまざまなテーマであそびの提案をしています。こちらは2,3歳の親子10~15組を対象に申込制で行っており、家族で参加できます。



あそびのひろば



草花あそび



学生による読み聞かせ



森のサロンHP

大学独自の事業としては、月に1回、水曜の午後にリフレッシュ保育(預り保育)を行っており、大変好評です。また学生ボランティアの募集や、卒業研究における調査、モニタリング等の協力も学科を問わず受け入れています。

さらに学生がおもちゃの制作や環境設定、アートワークショップを企画・実施し、報告冊子を作成する「学生がつくるサロンプロジェクト」は今年で10年目を迎えます。親子とのふれあいを通して、子育ての“今”を知り、生きた学びが得られることも森のサロンの特色のひとつです。興味のある方はぜひ、森のサロンまでお問合せください。

板橋 児童発達支援事業所 わかくさ

120周年記念館5階

発達が気になるお子さんが、幼稚園や保育園と併用しながら通室し、療育を行う施設が東京家政大学内にあります。昭和41(1966)年に児童学科の跡見一子教授が学生を募り、「わかくさグループ」として、集団治療室で障がい児の保育を開始したのがわかくさの始まりで57年という長い歴史があります。令和2(2020)年7月に東京都から認可を受け、「児童発達支援事業所わかくさ」として新たにスタートしました。

わかくさの特徴は、年長児まで保護者と一緒に療育を行い、さまざまな遊びを提供し、経験を広げていながら持っている力を引き出し、大人も子どもと共に育ちあう場所となっています。

わかくさのモットーは「楽しもう!!」です。自ら活動に取り組

み楽しむことで、その活動が大好きになり、何回もやりたくなり、繰り返すことで力になっていきます。そんな、子どもたちが大好きになるような楽しい活動をたくさん提供していきたいと思っています。

また、大学内に児童発達支援事業所があるのは関東地方でも東京家政大学のみです。ここで行われている一人ひとりに合わせた療育(保育)に触れ学ぶことは、子どもについて学んでいる学科の学生が、将来、現場に出た時、大きな力となると考えています。見学やボランティアなどを積極的に受け入れています。



わかくさHP



夏まつりでのコマ
児童学科の学生がボランティアでたこ焼屋さんを担当。
療育のコマを覗く貴重な体験ができる。



リハビリテーション学科実習
脳に刺激を与える「タオルぶらんこ」は、子ども達が大好きな遊び。
子どもの反応を直にみることができ、児童発達支援の実践を体験できる。

令和6(2024)年度 東京家政大学・

健康科学部

リハビリテーション学科 田中 繁治

担当科目：医療英会話、看護・医学英語、コミュニケーション論、基礎理学療法学演習、等

《教育への抱負》

理学療法士は知識・技術がしっかりとしていることはもちろんですが、ヒトの「痛み」を理解できる心の優しさが大切です。他者の心を慮ることのできるセラピストの育成を目指します。そして、リハビリテーション学科から世界に羽ばたく人を応援します。

《こんなことを教えたい》

作業療法士や理学療法士として社会で活躍できる心根の優しい女性セラピストの育成に貢献したいと思います。また、これからの時代はグローバル化が必須の時代となります。言語だけではなく、グローバルマインドの育成にも力を入れ、世界における健康問題について伝えていきたいと思っています。そして、それぞれの学生が個性を発揮しながら、セラピストとして、どのようにしてその健康問題に貢献できるかを一緒に考えていきたいと思っています。



子ども支援学部

子ども支援学科 福水 道郎

担当科目：健康保育、特別支援教育、神経科学、知的・肢体不自由・病弱・聴覚・視覚各障害児の心理・生理・病理、人体の構造と機能

《教育への抱負》

ヒトのカラダを深く知り、子どもの病気や障がい・医療に関する知識を十分理解し、健康を育む上で何が必要なかを考えて行動し、医療的ケアも安心して実践できる保育者・教育者の育成を目指していきたいです。多様性のある子ども達の育成を支援する喜びを得られるよう、ともに歩みたいと思います。

《こんなことを教えたい》

保育・教育において健康・医療に関わる専門的知識を求められる機会が多くなっています。医療保育専門士とその関連職種、特別支援学校教諭は保育・教育に重要な知識である成長・発達・障がい・病気に伴う精神的・身体的負担を緩和し、子どもが安心して前向きに過ごせるような支援を先頭に立つて行うことができます。専門保育・特別支援教育だけでなくどの領域に進んでも、学生が柔軟に対応できるよう現役小児科医として自分の持てる全てを教えていきたいです。

キャンパスの四季



狭山キャンパス



板橋キャンパス



Tokyo Kasei Press Vol.101 学校法人渡辺学園 広報誌なでしこ 令和6(2024)年7月発行

■発行人

菅谷 定彦（学校法人渡辺学園 理事長）

■編集責任者

岩井 絹江（広報・宣伝部 統括）

■Tokyo Kasei Press WG 編集メンバー

川口恵美子、後藤直哉、綿貫里穂、松井渚、嶋田彩乃

■表紙デザイン

坂本 理恵

■編集・発行

学校法人 渡辺学園 広報・宣伝部
〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1
電話：03-3961-5690

■制作・印刷

上毛印刷株式会社

■広報誌なでしこ
バックナンバー■なでしこ101号アンケートに
ご協力お願いします

次号102号は、令和6年10月発行の予定です。
掲載希望の記事がありましたら、広報・宣伝部にご連絡ください。

東京家政大学短期大学部 新任教員紹介

栄養学部

栄養学科 服部 浩子

担当科目：栄養士実習、総合栄養学演習Ⅰ・Ⅱ

《教育への抱負》

食のプロフェッショナルとして、社会貢献できる人材を育成したいと考えています。

《こんなことを教えたい》

自分自身の実務経験や発展途上国（イエメン共和国・グアテマラ共和国）での駐在生活経験をもとに、管理栄養士・栄養士という専門職について伝授して、興味関心を持って積極的に学ぶ姿勢を引き出します。学生自らの健康づくりならびにウェルビーイングと一緒に考えていきたいです。学外での実習が実り多いものとなるようサポートし、個性豊かで人に寄り添えるプロフェッショナル養成を目指します。



人文学部

心理カウンセリング学科 温泉 美雪

担当科目：発達臨床心理学、障害者・障害児心理学、心理アセスメント実習、他

《教育への抱負》

学生の皆さんには世の中にある社会的課題に眼向け、「自分にできることは何か」を問う姿勢を養っていただきたいと思います。

《こんなことを教えたい》

私は認知行動療法を専門とし、発達特性のある方が自分らしく満ち足りた生活を送るための支援を提供しています。教育者としては学生の方々に対して、神経発達症だけでなく不安症など支援を必要としている人がどのような困難に直面しているのかを実感し、地域ぐるみでそれを解消する方法を考えていただきたいと思います。心理職としての理論と実践力を、そして地域をエンパワーする発想力を養うことを後押ししていきたく願っています。

教育福祉学科 柳沢 志津子

担当科目：ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)、社会調査実習、社会福祉演習(ゼミ)、他

《教育への抱負》

社会福祉の学びを通して探究心を養う場にしたいと思います。

《こんなことを教えたい》

社会福祉実践は、時代や社会情勢にあわせて変化が要請されます。しかし一方で、人権尊重や社会的包摂など、どの時代、どの社会でも共通した普遍的な基本理念も重要な視点です。目の前にある具体的な事象だけでなく、その根本にある本質的な課題やその構造を理解できる力を養いたいと思います。



短期大学部

栄養科 渡邊 和寿

担当科目：生化学実験、基礎栄養学、解剖生理学実験、栄養生理学実験

《教育への抱負》

栄養と体の仕組みについて興味を持ってもらえるよう教育に取り組みたいと思います。

《こんなことを教えたい》

私は大学、大学院、海外留学、そして就職と、さまざまな地域やさまざまな人々との出会いを通じて、地域の特性や人々の多様性を感じ取り、しみながら生活してきました。これらの経験を通じて得た知識や洞察を共有し、皆さんの活動に活かしていただき、キャリアアップに役立てていただければ嬉しく思います。あらゆる面から刺激を受け、知識を深め、情熱を燃やせる人の成長を支援したいです。



理事長コラム〈19〉◇世界を生きる◇

学校法人 渡辺学園理事長 菅谷 定彦

日経米州編集総局長時代⑤

境第一企画社長とロングアイランドへ

水野ミズノ副社長とはヤンキーススタジアムに

日本経済新聞の初代米州編集総局長在任中の昭和62(1987)年から2年間、わが国はバブル景気の最中、円相場も一ドル＝145円前後の円高とあって、日本人の来客は厳冬の期間を除き週1〜2名。私は全訪問客に丁寧に対応したが、長年親しくしている人物との会合は楽しい時間だった。

晴れた5月にニューヨーク入りしたのは妻孝子(ここの)のいとこで、有力広告会社第一企画(現アサツーDK)の境直哉社長、由紀子夫妻。提携先の米広告会社DOBのパンバック会長との商談が主目的だった。事前の電話で日曜日の昼から夜まで付き合っただけというのでOKした。当日昼過ぎ私の愛車AUDIでマンハッタンのホテルで境夫妻をピックアップ。ニューヨークタイムズ紙が「ワールド・ロングゲスト・パーキングブレイス」と悪評したロングアイランド・エクスプレスウェイは日曜午後とあってスイスイ。ロングアイランドのポート・ヨット専用の港に到着。

パンバック会長の運転する大型ボートでハンバークとコーラの昼食をとりながらロングアイランドの美しい緑、立派な別荘群、マンハッタンの遠景などさわやかな3時間だった。夕暮れが迫る中、境社長から菅谷さんの車を港に置き、

パンバック会長のキャデラックで彼が会員のクラブで夕食をと言われ付き合った。

会食は終始仕事の話。境社長は日本での米企業の広告出稿を増やせ、DOB会長は努力しているが簡単ではない、境社長はなぜかと問い、DOB会長が理由説明することの繰り返し。英語が得意でない境社長に代わって私が通訳を務めた。終了後境社長から「菅谷さんの英会話は完璧だ」と褒められ、出されたワインやステーキデザイナーのフルコースを間断なく通訳を務めながら完食したことを「菅谷さんはすごい」と由紀子夫人に驚かれた。境さんは翌年早々にもロッテの重光武雄社長と共にマンハッタン入り、3人で朝鮮焼肉屋で懇談した。

明治生命保険の役員だった一郎氏の長男、境社長は東京文化学院卒、学生時代は「遊んでばかり」と私に話したが、アジア・太平洋戦争の敗戦間もない昭和24(1949)年、友人の堀田三郎氏と広告会社国際企画を設立、昭和36(1961)年第一企画(現アサツーDK)に社名変更。昭和29(1954)年から始まった日本経済の高度成長期に乗り、三菱グループや西武流通グループなどの有力企業の広告を持ち前の粘り強さとセンスの良さで増やし続けた。三菱自動車「ミラージュ」のえりまきとかけ、パイポ



米広告会社会長所有の大型ボートでロングアイランド沖を周遊、左は境第一企画社長



1989年8月 ヤンキーススタジアムネット裏席で 右が水野ミズノ副社長

の「私はこれで煙草を辞めました」など話題のCMを次々と生み出した。

境さんと親しくなったのは私と孝子の工業倶楽部での結婚披露宴を岳父、田実彦(当時三菱銀行副頭取の要請で取り仕切り、何度か打ち合わせたことに始まる。その後私の日本経済新聞記者時代からニューヨーク特派員帰国後の編集局産業部次長、同部長まで「菅谷さんを一企の後継社長に」と口説き続けた。赤坂、浅草、神楽坂の一流料亭で最初の5〜7分、人払いして私を説得。私は「新聞記者やマスコミのリーダーとして日本の健全な発展に貢献する」と断り続けた。話が終わるとギターの演奏者を呼び、飲食しながら交互に15〜20曲歌ってお開きのパティーン。ある時境さんの長男で成蹊大学を卒業後ボストンのバブソン大学院でMBA(修士)を取った芳郎君が第一企画に入社しているのではと話す。菅谷さんが一企に来て指導してくれる結果次第」との返事だった。

私が日経常務取締役名古屋代表に就任した平成5(1993)年3月の数カ月間まで時には共通の友人、山崎達光エスピー食品社長らと携え合合を持ったが、名古屋への赴任直前、境さんがガン治療で極秘入院していた国立ガンセンターを訪ねた。常務の名刺第一号を手渡し、喜

んでもらったが程なく亡くなった。四谷イグナチオ教会での通夜、告別式に境さんの遺言で私と家内が親族代表を務めた。

日経産業部長時代に知り合ったスポーツ用品メーカー、ミズノの水野正人副社長(翌年社長)のニューヨーク入りは昭和62(1987)年7月。ミュージカル鑑賞を希望されたが「オペラ座の怪人」「キャッツ」など全て超満員。私の秘書が苦勞して確

保したのは高級住宅街マディソン・アベニューにあるマンシヨンの1〜3階を使って、客が案内人のガイダンスに従い、各階の舞台で俳優が演じるユニークな演劇。3階で水野氏がいないことに気付く2階に降りると壁側の椅子で眠っている水野氏を発見。旅の疲れと時差の影響と判断、翌日のヤンキーススタジアム行きを約束し、地下鉄でホテルに送り届けた。

スタジアムのあるブロンクス地区は必ずしも安全でなく、駐車場も混んでいると判断、タクシーで向かった。バックネット裏のいい席だったが、試合が凡戦、猛暑下でもあり、水野さんは「ミズノは野球用品を大量にヤンキースに納めているので「特別室」に入れるから軽食でも」と同行すると、水野氏がスニーカーを履いていたため入場を断られた。水野氏はウィスコンシン州のカールセージ大学理学部卒。得意の英語力でまくしたてたがNO。「明日もお互い朝から仕事なので帰らましょ」と地下鉄でホテルに送り届けた。

水野氏はその後東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会副理事長に就任、平成23(2011)年IOC(国際オリンピック委員会)総会で、日本代表として東京誘致のプレゼンを英語で行い、成功させた。

※次号は「世界を生きる」

「日経米州編集総局長時代⑥」です